「新横浜線」3月18日開業　神奈川からつながる14路線

#地域総合 #神奈川 #東京

2023/3/1 5:00 [有料会員限定]

相鉄・東急の直通線「新横浜線」が3月18日に開業する

相模鉄道と東急電鉄が直通する「新横浜線」が3月18日に開業する。相鉄にとって2019年11月から始めたJR東日本との相互直通運転に続き、本格的に東京都心へと乗り入れる「悲願」の路線だ。東京都、埼玉県、神奈川県をまたぐ鉄道ネットワークの形成に加え、東海道新幹線との接続も実現する。住民呼び込みに向け沿線の開発にも拍車が掛かる。

新横浜線は相鉄線西谷駅（横浜市保土ケ谷区）から東急線日吉駅（同市港北区）を接続する連絡線で、新横浜駅（同）と新綱島駅（同）が新駅として設置される。

新横浜線の開業により7社局14路線が結ばれ、直通運転も多く設定される予定だ。相鉄本線からは東急目黒線、東京メトロ南北線を経由し、埼玉高速鉄道埼玉スタジアム線で浦和美園駅（さいたま市）まで直通するほか、都営三田線で西高島平駅（東京・板橋）までつながる。

相鉄いずみ野線からは東横線、東京メトロ副都心線を経て、東武東上線の小川町駅（埼玉県小川町）まで接続する。

横浜駅を起点に全路線が神奈川県内を走行する相鉄は、大手私鉄の中でも営業路線の長さは最も短い。長く東京都心への乗り入れがなく、相鉄沿線の主要エリアでは少子高齢化が急速に進んでいた。「沿線地域から都心への人口流出が多かった」（相鉄）

それだけに、相鉄にとって東京の主要駅に直通運転でつながる新線の実現は、再び住民を沿線へと呼び込む「切り札」として待望の一手だ。

神奈川県の県央部から東京都心へのアクセスが向上する

敬遠されがちな乗り換えの手間がなくなり、神奈川県央部から東京都心への所要時間も短縮する。いずみ野線湘南台駅から東京メトロ副都心線の新宿三丁目駅（東京・新宿）までの所要時間は最速59分、相鉄本線海老名駅から都営三田線の大手町駅（東京・千代田）までは最速70分となる。

東海道新幹線への接続に対する期待も大きい。新駅の「新横浜駅」は相鉄・東急電鉄の両社にとって初の東海道新幹線への乗換駅となる。名古屋・大阪方面とのアクセスが向上する。

JR東海は新線開業に合わせてダイヤを改正し、新横浜駅を始発とする「のぞみ」を新設した。土曜・月曜を中心に早朝6時3分発の新大阪駅行きで、相鉄沿線などからは品川駅経由よりも早く到着できるようになる。相鉄・東急電鉄も朝6時前に新横浜駅へ到着する列車を複数設定する計画だ。

東急電鉄は2月からJR東海やJR西日本、阪急電鉄とコラボし「東急線から新幹線へ」と銘打ったプロモーションを展開している。「東西の鉄道会社5社がつながる」ことをポスターや動画で訴え、自社路線から新幹線を利用した関西への旅行需要を喚起する。

新横浜線の沿線では、これまで手付かずだった再開発計画も動き始めた。新横浜駅では駅南側の「篠原口」について、横浜市が2月に新たなまちづくり計画案を公表した。市による道路整備とともに、地権者らによる再開発準備組合が中心となって約3.5ヘクタールのエリアに高層のオフィス・商業ビルや集合住宅などを建設するとしている。

新綱島駅周辺でも、駅直結の複合施設「ドレッセタワー新綱島」などの整備が進み、マンション約250戸は既に完売した。東急東横線の綱島駅東口駅前の再開発も、市による都市計画が決定され、マンションや商業施設などの複合施設が建設される計画だ。新綱島駅へつながる横断デッキを設ける計画で、28年度の事業完了を目指すとしている。

さらに相鉄いずみ野線沿線でも、ゆめが丘駅（横浜市泉区）では相鉄グループが約140店舗入る大規模集客施設を24年夏開業を目指し建設中だ。駅前の約24ヘクタールを対象に再開発が進められ、集合住宅や地域の中核となる病院も整備される予定だ。

【関連記事】

・自由が丘・池袋・新横浜線…　首都圏の再開発を追う

・23年の首都圏、広域鉄道網が完成　大型都市開発も続々

・海老名市、人口増加続く　小田急が駅前に本社移転へ